

SUNSHINE ENGLISH COURSE

My Project を使いこなす技

目 次

【1年】

単元から My Project へ，そして My Project 同士のつながりへ …… 大澤 愛 1

My Project で生徒を伸ばす！ …… 田中里美 4

【2年】

はじめての「ディベート」で全員に意見を言わせたい …… 山口久美子 8

【3年】

生徒が生き生きと活動する場面設定の工夫 …… 松田由紀子 11

はじめに

開隆堂の教科書サンシャインの特長の1つは My Project です。

My Project の効用は

1. それまでの学習の積み重ねの結果、「こういうことが英語でできる」という実感を生徒に与えることができる。
2. 学期の初めに「こういうことができるようになるよ」というパフォーマンスのモデルをあらかじめ与えておくことで、生徒と先生が何をしなければならないかという長期の目標を共有できる。
3. 日々の学習や言語活動が何につながっているかが分かるので、学習の目標が明確になる。

このような利点をもつ My Project です。各学校では生徒の実態に合わせたパフォーマンスの工夫などを加えて、生徒が英語を使っているという実感のあるコミュニケーション活動をしていただければ、生徒の英語力は大いに伸びるものと期待されます。

先生方にはこの My Project を利用して、生徒の力を引き出す授業の工夫をお願いするとともに、生徒が本来持つエネルギーを引き出して、活発な教室活動が展開されるようお願いいたします。

本企画は各学校で行われている My Project の活用法として、このような活動をして効果を上げている事例をご紹介しますので、先生方のご参考になれば幸いです。

開隆堂編集部

単元から My Project へ，そして My Project 同士のつながりへ

福岡市立平尾中学校
主幹教諭 大澤 愛

1. My Project の指導にあたり

学習活動の節目に入っている My Project を意識して，日常の学習を行っています。3 学年最終の My Project 9 ができる生徒を育てるためには，それぞれの学年でどこまで到達しておかなければならないのかを英語科で共有し，生徒に伝えています。

My Project はスピーキングを中心にした活動となっています。生徒が今まで学習してきた内容を活かして，表現させることがねらいだと考えています。そのためには，今まで学習してきた内容をどのように定着させるかが大切です。それぞれの単元での学習のつながりと，そこで身につけた知識をどのように応用させていくかを考え，授業を構築しています。特に 1 学年は，中学校での英語科学習の基礎を築く大切な時期です。小学校英語活動の取り組みから得た英語への素地をどのように中学校につなげ，基礎学力としてどう定着させていくかを焦点にあてています。日常の授業内容と家庭学習をどのように組み立て，My Project につなげているかについて紹介していきたいと思います。

2. アクションカードを活用した帯学習

教科書巻末資料 9 アクションカードを活用し，それぞれの My Project につなげています。

活 動	目 的
1. カルタを行う。(カードを机に並べ，教師が言った動詞をペアでとりあう。) 2. 36個の動詞を書けるように練習する。 3. 主語をIにして英文を作成する。 My Project 1 で行う自己紹介へつなげる。	・小学校で慣れ親しんできたカルタの活動を取り入れ，楽しみながら動詞の定着を図る。 ・聞けて，話せた語を書かせ定着を図る。 ・語から，文への定着を図る。
4. 主語を3人称に変えて，英文を作成する。 My Project 2 で行う他者紹介へつなげる。	・3人称単数現在形の動詞の定着を図る。
5. それぞれのカードの状況を英文3文で表す。 (毎時間の家庭学習) 6. 生徒が作成してきた英文の間違い探しと，素晴らしい英文の紹介 (家庭学習→帯学習) まとまった英文を書く習慣を身につけさせMy Project 3へつなげる。	・今まで習った表現を用いて，まとまった英文を書けるようにする。 ・間違えを見つける事や，いい英文を見る事で，意識が向上する。

3. My Project 1 から My Project 3 へのつながり

1 学年で行う My Project は人を紹介する内容が発展的に取り扱われています。My Project 1, 2 で自分が作った内容をしっかりとファイリングさせたり, 1 冊のノートにまとめさせたりしておくことが大切です。My Project 用のノートを 1 冊準備させ, 自分が作った作品をまとめておくと, 3 年間の学習の深まりがよく分かり, より有効だと思います。

また My Project 3 の最初の部分では, 今までの学習で得た知識を確認するように構成されています。今までの表現の総まとめについて My Project 3 で出てくることを年度当初に意識をし, 指導にあたっていくことが大切だと思います。私は, この部分を帯学習で行っていききました。ペアで英文を確認しインプットさせ, 家庭学習で英文を書けるように練習させました。生徒は今まで学習してきたことを振り返ることができ, 1 年間のまとめを行っていくことができました。

4. ひとつの単元から, My Project へのつながり

(1) Program 10 の学習活動・内容と単元の指導計画 (9 時間)

次	配当時間	学習活動・内容
1 次	3 時間	1. 本単元の学習の方向性を理解する。 (1) スライドやビデオをもとにアメリカ合衆国の特色について理解する。 ・ワシントンD.C.の街など (2) 身近な出来事を話題にして, 規則動詞の過去形と疑問詞Whyの表現を理解する。
2 次	4 時間	2. 本文を読み, 内容を理解する。 (1) 範読CDを聴きながら, 新出語句をチェックする。 (2) オーラルイントロダクションにより本文の内容をつかむ。 ・マイクからの手紙, マイクと由紀の会話 3. 確認テストを受け, 規則動詞の過去形, 疑問詞Whyの表現や本文の内容に対する理解度を確認する。 4. 規則動詞の過去形の表現について理解を深める。 ・「1年間の一番の思い出」について英文を作成し, 発表する。
3 次	2 時間	5. アメリカ合衆国のいくつかの都市の特色について理解を深める。 (1) アメリカ合衆国の都市についての英文を読み, 内容を理解する。 ・シカゴ, ニューヨーク, フロリダ, ハワイ, ロサンゼルス (2) 英文の内容についてグループで共有をし, マイクの旅行先を決めた理由を英文で作成し, 発表する。 (3) グループで発表する。 (4) 発表内容をもとにネイティブスピーカーとのインタビューテストを行う。

(2) Program 10 から My Project 3 へのつながり

My Project 3 の学習活動・内容と単元の指導計画 (5 時間)

次	配当 時間	学 習 活 動・内 容
1 次	3 時 間	<p>1. 1年間学んできた表現の理解を深める。(帯学習)</p> <p>(1) 「どンドン質問しよう」について、ペアで英問英答を行う。</p> <p>(2) 「どンドン質問しよう」について、書けるように練習する。</p> <p>(3) 「どンドン質問しよう」について、教師が5つ質問をし、それについて40秒で答えることができるように練習をする。</p> <p>2. 英語でのインタビューの仕方を理解する。</p> <p>(1) 質問する内容を英語で聞くことができるかを確認する。</p> <p>・ 氏名, 職業, 年齢, 住所, 身長, 好物</p> <p>(2) 友だちとインタビュー活動を行う。</p> <p>(3) インタビュー活動について、自己評価を行う。</p>
2 次	2 時 間	<p>3. アメリカ合衆国の有名人について、インタビュー活動を行う。</p> <p>(1) アメリカ合衆国の有名人について1人ずつ調べ、プロフィールを作成する。</p> <p>(2) インタビューで質問することを予想し、質問カードを作成する。</p> <p>・ 氏名, 職業, 年齢, 性別, 家族, 趣味など</p> <p>(3) 友だちとインタビュー活動を行う。</p> <p>(4) インタビュー活動で得た情報をもとに、アメリカの有名人について、英文でまとめる。</p>

(3) My Project 3 を終えて

Program 10 でアメリカ合衆国について学んだことを活かし、My Project 3 の学習を発展させ、アメリカ合衆国の有名人について、インタビュー活動を行わせました。Program 10 での学習の深まりがなければ、この活動は成り立ちません。それぞれの単元を My Project につなげていくことは文法や表現だけではありません。単元の内容からのつながりについて考えていくことで、My Project の内容は、生徒にとってより一層、興味・関心を高めるものになると思います。

5. My Project への取り組みから見えてきたもの

My Project に取り組むことで、学習内容を発展させたり、整理させたりすることが充実してきました。My Project でのスピーキング活動を行わせるまでに、どのような活動が必要なのかを常に考えています。また、学習の最後には必ず書く活動を取り入れ、学習内容をしっかりとまとめさせています。聞くことができ、読むことができ、話すことができ、書けることができるようになる。My Project に取り組むことは、4技能の力をバランスよく身につけさせることにつながると思います。

My Project で生徒を伸ばす！

金沢市立野田中学校
教諭 田中 里美

1. 教科書に込められた思い

教科書には、教科書を作る著者の思いが詰まっている。平成 24 年度から新しい学習指導要領が実施され、教科書が新しくなった。教科書が *Sunshine* に変わる少し前、教科書の著者や出版社の方のお話を聞く機会があった。そこで、私が一番 *Sunshine* で魅力を感じたのが、My Project だった。

My Project は、授業で積み上げてきたことを発表する言語活動である。学年別に自然に組み込まれた言語活動は 3 年間で 9 つある。これまで、どこか教科書から切り離され、同僚と共通して取り組むことが難しかった言語活動が、教科書上で 1 本の線につながったのだ。私たち英語教師は、この My Project をどう授業で活かせるだろうか。

2. My Project に何時間かける？

My Project で生徒が発表するのは、1 時間。先生方はこの 1 時間のために、いつから、どれだけ時間をかけているだろうか。例えば、1 時間目に教科書で書き方を学んで原稿を書き、2 時間目で発表とする。これだと、原稿が未完成のままの生徒や練習不足で発表がうまくいかない生徒がでてしまう。

私は、1 年生の 1 つの My Project で 4 時間かけている。ただ、連続で 4 時間するのではなく、実際は約 3 週間かけている。これは下の表のように、生徒が自分で原稿をじっくり考え、調べ、音読練習ができるようにするためのものである。これで、教師は原稿を添削する時間が十分確保できる。ALT にも、原稿の添削や発音指導、発表後にベストスピーカーの発表や感想を依頼しておき、生徒が生の英語に触れるチャンスとしている。これで、My Project 1, 2 とも全員が 10 文の原稿を完成させ、ほとんどの生徒が原稿を見ずに発表できた。

	授業時数	内 容	教師の準備・指導など	ALT
3 週間前	1 時間目	紹介文の練習	教科書で書き方指導	
	2 時間目	原稿作成	教師のモデルで内容指導 評価基準の説明	
2 週間前	(授業外)	原稿提出 ものの準備	原稿の添削 発表会に向けたお知らせ掲示	○
1 週間前	3 時間目	発音練習	発音と読み方の個別指導	○
	4 時間目	発表会	発表マナーと評価基準の確認 発表のビデオ撮影 JTE と ALT による感想と評価	○

3. My Project でステップアップ!

発表は同じ状況で、少しずつハードルを上げていく。My Project 1 と My Project 2 では、原稿を書く前に、生徒に次のような条件を提示した。

My Project 1 (自己紹介をしよう)

- ・あいさつを入れて 10 文で書く
- ・ジェスチャーを使う
- ・他の人が初めて知るようなことを 1~2 個入れる

My Project 2 (人を紹介しよう)

- ・あいさつを入れて 10 文で書く
- ・ジェスチャーともの(写真, ポスター, 似顔絵, パンフレット, 本, 雑誌など)を使う
- ・他の人が初めて知るようなことを 2~3 個入れる
- ・クラスの人以外で, 自分と親しい人や興味のある人について書く

クラスメートが初めて聞く内容を入れたり, ジェスチャーやものなど英語以外で伝える工夫をする。これは, 原稿を書くときから, 発表での聞き手を意識させるためである。また, 評価基準は生徒に事前に伝えておき, 発表後に結果を個別に伝える。ちなみに My Project 2 の評価基準は, 以下の通りである。

- 5 点 10 文の英文を考え, ものとジェスチャーを上手に使い, 覚えて発表できた
- 4 点 10 文の英文を考え, ものとジェスチャーを使い, ほぼ (10%まで) 覚えて発表できた
- 3 点 10 文の英文を考え, ものかジェスチャーを使い, ときどき (50%まで) 原稿を見て発表できた
- 2 点 7~10 文の英文を考え, ものやジェスチャーを使わずに, ほとんど (80%以上) 原稿を見て発表した
- 1 点 7~10 文の英文を考え, 発表できなかった
- 0 点 7 文以上の英文を考えることができず, 発表もできなかった

4. My Project に向けた授業

いきなり, ジェスチャーやものを使って, 英文を覚えることはなかなか難しい。そのため, 普段の授業で, My Project に向けた準備をしておく必要がある。例えば, 1 年生の教科書の「おぼえよう」は, 全てジェスチャーを使って暗唱テストをする。本文のページもどんなジェスチャーを使うか生徒に想像させる。また, ものを使って話すことに慣れるため, Program 7-2 の本文は, ピクチャーカードの絵を指で差しながらペアで発表させることができる。

5. 友達から学ぶ

生徒には, 原稿の内容にもこだわって欲しい。発表と原稿を同時に評価することは難しいが, 発表だけでなく, 原稿の内容でも評価したい。以下は, 発表で満点だった 4 人の生徒の英文である。波線の文は, 他の生徒が初めて知るような内容である。同じぐらいの文量を書いても内容のこだわりという点では, 以下のように A と B で違いがあるのがわかる。

A

- ① Hi, class. Do you know this man? He is Kumakawa Tetsuya. He is a ballet dancer and a director of arts. He can jump high. I often watch his ballet on DVD. His ballet is great. He is very popular around the world. I respect him. Thank you for listening. (10 文)

②Hi, class. Do you know this man? His name is Johnny Depp. He is a movie star in America. He is very gentle, funny and cool. He likes books He doesn't like spiders or chocolate. I really like his movie, "Pirates of the Caribbean." He plays a captain, Jack Sparrow. He is very popular with people all over the world. I like him very much. Thank you for listening. (12 文)

B

①Hi, everyone. Do you know this boy? He is Snoopy. His birthday is August 10. He is cute, popular and easy going. He has four brothers. He has many friends. He likes ice cream. I like him. Thank you. (10 文)

② Hi, everyone. Do you know this man? He is Monkey D. Ruffy. He is from a windmill village. He is a pirate. He is active, strong and fine. He has a straw hat. He likes meats. I like him. Thank you. (10 文)

以下は、My Project2 の発表を終えた生徒の感想の一部である。

- ・一人ひとりが一生懸命発表していて、とても素敵で素晴らしかった。自分の発表は、今まで練習してきたことを出し切れたので良かった。
- ・写真や絵を使って分かりやすかったし、新しい発見もあったのでおもしろかった。笑顔で発表している人もいて良かった。
- ・みんな友達や家族、芸能人を紹介していて、意外と知らなかったことがあるとわかった。芸能人の趣味などきつと調べたのだと思うから、その努力がすごいと思った。ジェスチャーをうまく使う人を見習いたい。○さんなど、見ている人の興味をひいているのでいいと思った。
- ・2つの絵を使って発表できた。ジェスチャーをうまく使うことができた。小道具を上手く使っている人がいた。
- ・いろいろな人を紹介して、たくさんの人のことが知れてよかった。ものがあるから分かりやすかった。
- ・写真とジェスチャーを上手に使っている人の発表はすごく分かりやすかった。できるだけジェスチャーをつけて、写真を指さしてできたのでよかった。緊張して人に伝えようとするのができなかったのも、次のマイプロジェクトでは、もっと練習してみんなの顔を見て発表できるといいと思った。
- ・次、発表があるときは、本番でも緊張せず余裕を持って発表できるぐらいに覚えてから発表したい。発表する文全部にジェスチャーをつけて発表している人もいてすごいなと思った。
- ・失敗して本当に残念だった。みんなの発表を聞いて、いろいろな発見があった。特に、○さんの発表が本当によかった。発音もそうだけど、みんなを意識していたところがよかった。今後まねしていきたい。

6. My Project で自信をつける

5.の感想にあるように、My Project を続けることで、生徒は自分で課題を見つけ、次に向けて頑張ろうという気持ちになる。実際に、発表をするたびに上手くなる生徒が増えた。学年掲示板でお手本となる原稿をいくつか紹介し、なぜ良いかの教師のコメントも書く。すると、他のクラスの生徒の原稿がモデルとなる。半年ごとに実施している授業アンケートでは、『My Project で「話す力」や「書く力」が

ついた』と答える生徒が一番多かった。生徒は、力がついたことで英語の学習に自信を持つ。My Projectの発表でたとえ失敗したとしても、3年間を通して「英語の力が伸びた！」と生徒が自信を持てるようにしたい。

はじめての「ディベート」で全員に意見を言わせたい

福岡市立三宅中学校
教諭 山口 久美子

1. 単元 SUNSHINE 2 年

My Project 6 「賛成意見や反対意見を言おう」

2. 学習のめあて

「ある意見やテーマについて、賛成意見や反対意見を述べよう」

3. 評価規準

- ・既習表現を用いて、自分の意見を相手に伝えることができる。
- ・ある意見やテーマに対して、賛成意見や反対意見を書いたり述べたりすることができる。
- ・賛否やその理由について、論理的に意見を書いたり述べたりすることができる。

4. 活動のねらい

この単元のねらいは、既習の英語を使って、自分なりにある意見やテーマについての賛否やその理由について述べるようになることなので、簡易的なディベート活動を目標に設定した。Yes / No だけでなく、その理由を説明することは、コミュニケーションにおいて大切な自己表現である。しかし中学生にとって、自分の考えを整理して述べるのはそう簡単なことではない。そこで、ペアからグループでの活動というスモールステップを踏み、友人の意見を取り入れながら自分の考えを深めていくという活動を仕組んだ。英語で自分の意見を言うことの大切さや様々な意見を聞くことの楽しさを感じさせたい。

5. 指導の流れ・ポイント・留意点

○事前の帯学習（10分を3時間程度続ける）

My Project の学習に入る前に、リラックスして自分の意見を言える雰囲気を作ること、英語で意見を言うことの楽しさを味わわせるために帯学習を行う。まず、I agree. / I disagree. の意味を説明し、全員に (I agree.) (I disagree.) と書かれたカード（裏表）を渡しておく。教師が提示する意見やテーマに、賛否どちらかのカードを挙げさせる。ペアで賛成・反対の理由を“Because ~.” 1文～2文程度で、意見交換する。ここでは、正確さを求めず書くことはしない。数人に意見を発表させ、全体で共有して様々な意見があることへの発見やおもしろさを感じさせる。（○×カードは、友人がどのような意見の立場かを知るため、また自分の意志で選択し、理由を言う責任をもたせるために使用する。）

○My Project 活動（4時間）

事前の帯学習で、賛否の表現やその理由を述べることを学習している。教科書の内容から、理由を順序立てて言うことや、どんな内容が説得力があるかを確認させる。ディベートのテーマは、“Cellphones are necessary for junior high school students.”とし、まずは自分が賛成か反対かの意見を書かせる。次に、ペア・ディベートを行い、納得できる相手の表現をメモし、自分の考えに取り入れていく。数回くりかえし、自分の意見をふくらませ、深めていく。（関西大学教授 田尻悟郎先生のミニディベートを参考）この活


動ならば、理由があまり思いつかない生徒や英語が得意ではない生徒も、友人のよい意見を取り入れながら取り組むことができる。次に、班を賛成・反対の2グループに分け、グループで意見をまとめて簡易的なミニディベートを行う。最後には自分の考えをまとめ、教師（NS）に発表する。

6. 指導計画（事前学習＋4時間）

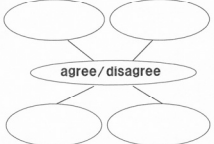
	学習活動	留意点
事前	<p>(帯学習) めあて：賛成・反対意見を言おう。(10分程度を3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> • School lunch is better than boxed lunch. • School uniform is better than casual clothes. • Dazaifu is the best place to visit in Fukuoka. 	<p>様々な意見を共有することを楽しむ雰囲気を作る。</p>
1次	<p>めあて：賛成・反対意見の言い方を知ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 (pp.110-112) <ul style="list-style-type: none"> • “A big / small town is a good place to live.” についての、賛成意見と反対意見を読む。理由の要点をまとめる。 2. “Cellphones are necessary for junior high school students.”に対する意見を言う。 <ul style="list-style-type: none"> • ○×カードを挙げる。ペアで理由を述べ合い、意見交換をする。 3. 賛成・反対どちらか、自分の意見を書いてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> • 理由の述べ方 “I agree / disagree. I have (three) reasons. First, ~. Second, ~. Last, ~.”を確認する。 	<p>意見では、「自分の感情」よりも「事実」を述べる方が説得力があることに気づかせる。</p> <p>意見文は回収し、添削する。</p>
2次	<p>めあて：ペア・ディベートをしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “Cellphones are necessary for junior high school students.”について、自分が前回書いたものとは反対（賛成は反対、反対は賛成）を支持する意見文を書く。 2. 意見がちがう相手に対する反応 “I see, but..., I don't think so. I don't agree with your opinion because ...”などを確認する。 3. ペアで、じゃんけんをして賛成・反対に分かれ、1文ずつ理由を述べ、どちらが多くの英文を言えるかを競う。 <ul style="list-style-type: none"> • 相手の文で、よい理由や説明があれば自分の意見につけたす。 4. 数回ペアを変えて、同じ活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> • その都度メモし、よい意見をつけたして、自分の意見をふくらませる。 	<p>相手の意見をよく聞き、メモさせる。</p> <p>意見文は回収し、添削する。</p>
3次	<p>めあて：ミニディベートをしよう。 【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 班を賛成・反対2グループに分け、それぞれのグループで理由や説明をまとめ、発表の順番を決める。 2. 賛成→反対→賛成→反対の順に、意見を述べあう。(1班ずつ発表) 3. 教師（NS）にどちらが説得力があったかを、ジャッジしてもらおう。 	<p>流れや相手の意見によって反論する順番をその場で考えるよう指示する。</p>
4次	<p>めあて：自分の考えをまとめ、賛成・反対意見を言おう。 【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の意見をまとめ、教師（NS）に言いに来る。 2. 早く終わった生徒には、さらに次の課題（意見）に取り組む。 3. 数名の発表を聞き、全体でいい点を共有する。 4. My Project 6 活動のふりかえりを行う。 	<p>何度も音読し、Read & look up で言うように指示する。</p>

My Project 6 賛成・反対意見を言おう① class No. Name

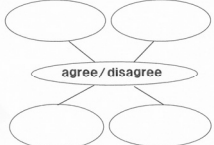
めあて：自分の意見（賛成・反対）とその理由を言えるようになる。

I agree. 賛成 I disagree. 反対 

活動1 次の意見に、賛否の意見を述べなさい。（マッピングで考えをまとめよう。）
意見 “Cellphones are necessary for junior high school students.”




活動2 前回とは、反対（賛成は反対、反対は賛成）の意見を述べなさい。




活動3 ペアディベートで友達の見聞聞いて、いい理由などがあればメモしよう。

agree	
disagree	




My Project 6 賛成・反対意見を言おう② class No. Name

めあて：自分の意見（賛成・反対）とその理由を言えるようになる。

I agree. 賛成 I disagree. 反対 

活動4 今までの活動をとおして、最終的な自分の意見をまとめよう。
意見 “Cellphones are necessary for junior high school students.”




活動5 まとめた意見を、先生（NS）に聞いてもらおう。また、終わった人はさらに Try の意見についての自分の考えをまとめ、先生のところに言いに来よう。

【評価】 A：理由が3つ以上で論理的・説得力がある。
B：理由が3つ以上ある。
○先生のところに言いに来る前に、何度も練習してくる。（Read & Look up）
○理由は3つ以上述べること。

	テーマ	スタンプ	評価
課題	Cellphones are necessary for JHS students.		
Try1	School uniform is better than casual clothes.		
Try2	Having dreams is more important than money.		

自己評価

	できた	できなかった
① 自分の意見を、理由をつけてきちんと述べることができた。	4	3 2 1
② 他の意見を聞いて、自分の意見をみなおすことができた。	4	3 2 1
③ ペア、グループで協力して活動することができた。	4	3 2 1
④ 感想		



7. 授業の様子

英語で自分の意見を英語で交わし合うことは、中学生にとって難しいのではと思っていた。しかし取り組んでみると、こちらが思う以上に、生徒たちは自分の考えを伝えることが好きなのだということを改めて感じた。教師が思ってもみない理由を思いつく生徒や、何とか伝えようと辞書をひく生徒、教科書をめくる生徒など、意欲的に活動に参加する生徒の姿が見られた。英語が得意でない生徒も、友人のいいモデルを参考にでき、班でのミニディベートでは全員が意見を述べる事ができた。賛成派は “We can’t live without the Internet.”, “We can call home when we go home late from juku.”, 反対は “We can’t study because we have to write a lot of e-mails every day.” “There are many dangerous things with using cellphones.” など多くの意見が出た。授業の感想では、「難しかったけど楽しかった。」「英語を使えている！という感じがした。」「いろいろな意見が聞けておもしろかった。」などの感想があった。

8. 成果と課題

今回の活動では、友人の様々な意見に触れ、考えを深めて述べる事ができた。違いを楽しむことができる活動が、生徒の意欲にもつながっていたと思われる。課題としては、ディベートの形式を見直すこと、さらに生徒一人ひとりの英語力を高めることである。今回は簡易的で、意見を述べ合うだけのものではあったが、本来ディベートには、形式（立論・反論・質問）がある。相手側の立論・反論を予測し、その場で考えをまとめて応答しなければならず、面白さがある。それには、普段から Yes/No だけでなく理由や説明を求めるような発問や活動を多く仕組み、即座に自分の考えを表現する力をつけていく必要があると感じた。普段の授業に力を入れ、My Project で生徒の力が発揮できるように努めたい。

生徒が生き生きと活動する場面設定の工夫

福岡市立原北中学校

教諭 松田 由紀子

1. はじめに

これまでプロジェクト型活動を取り入れたことはあったが、生徒にとっては楽しく活動できるものの単発的な活動として終わることが多かった。また、教科書の学習内容を深めることを目的にしても、生徒に関連性を明確に示すことは難しかった。*SUNSHINE*に My Project が導入されたことで、生徒が各課で習得したことを使用しながらコミュニケーション活動を楽しむことができるようになったことは、生徒の学習意欲を高める上でたいへん意義深いものと思われる。

この My Project は、教師が場面設定を工夫することで、生徒がパフォーマンスを楽しみながら 4 技能の力を伸ばすことができるようになっている。ここでは、本校 3 年生の取り組みを紹介したい。

2. 指導の実際

新聞記者になって有名人にインタビューしよう

(1) 指導計画（4 時間）

第 1 次：アグネス・チャンさんのインタビュー記事とイチロー選手に対するインタビューのやりとりを読む

第 2 次：有名人へのインタビューの内容を考える

第 3 次：有名人にインタビューする

第 4 次：インタビュー内容を記事にまとめる

(2) 指導内容

〈第 1 次〉

○教科書の My Project 7 を学習する。

〈第 2 次〉

○4 人グループを作り、各自が違う新聞社のライバル記者という設定をする。

（新聞社例）New York Times, Daily Planet, The Times, Harakita PTA-Shinbun 等

○各グループは有名人を 1 人選び、インタビューの内容を考える。NS (Native Speaker)の先生には 1 人 9 役を演じてもらうため、事前にあらゆる質問に対するリサーチをしておいてもらう。

（有名人 9 名）Yu Darvish, The President of Toyota, Will Smith, Steven Spielberg, Shinji Kagawa, Lady Gaga, Sho Sakurai, Samma Akashiya, The Prime Minister of Japan

○インタビューの際には、本物の新聞記者のように質問するために、以下の点に留意させる。

- ・自分の考えをコメントしながら質問する。
- ・相手が進んで答えたくないようなインタビューの仕方を工夫する。
- ・前の人の質問をさらに深めるような質問を考える。

〈第3次〉

- 制限時間 3 分とし、各グループ（4 人）は、メモを取りながら質問する。
- インタビューを聞いている生徒には、ワークシートに理解したことを 3 つ以上書くように指示する。

〈第4次〉

- インタビューした内容を元に新聞記事を書く。この際、皆が読みたくなるような「見出し」「レイアウト」「内容」「挿絵」等を工夫しながら書くように指示する。

(3) 評価

観 点	評 価 規 準
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	相手のことを知ろうとして、積極的に質問している。
英語表現の能力	集めた情報を内容等に工夫しながら記事にまとめることができる。
英語理解の能力	インタビューの内容を聞き取ることができる。

(4) 生徒の様子

① インタビュー活動時

新聞社名が書かれたネームプレートをつけた途端、生徒は本物のインタビュー場面で質問のチャンスを得ようとする新聞記者に変身した。臨場感を出すために、スクリーンには有名人の写真を写した。“Today’s celebrities are all very busy. So you have only three minutes to ask questions.”というこ
とでインタビュー活動が始まった。有名人になりきった NS は、指名する際には、“OK. Next, New York Times, please”と言うなど、雰囲気をさらに盛り上げた。“When is your birthday?”, “Do you like Japanese food?”のような質問だけでなく、準備段階で指示した点に注意した質問も多く見られた。

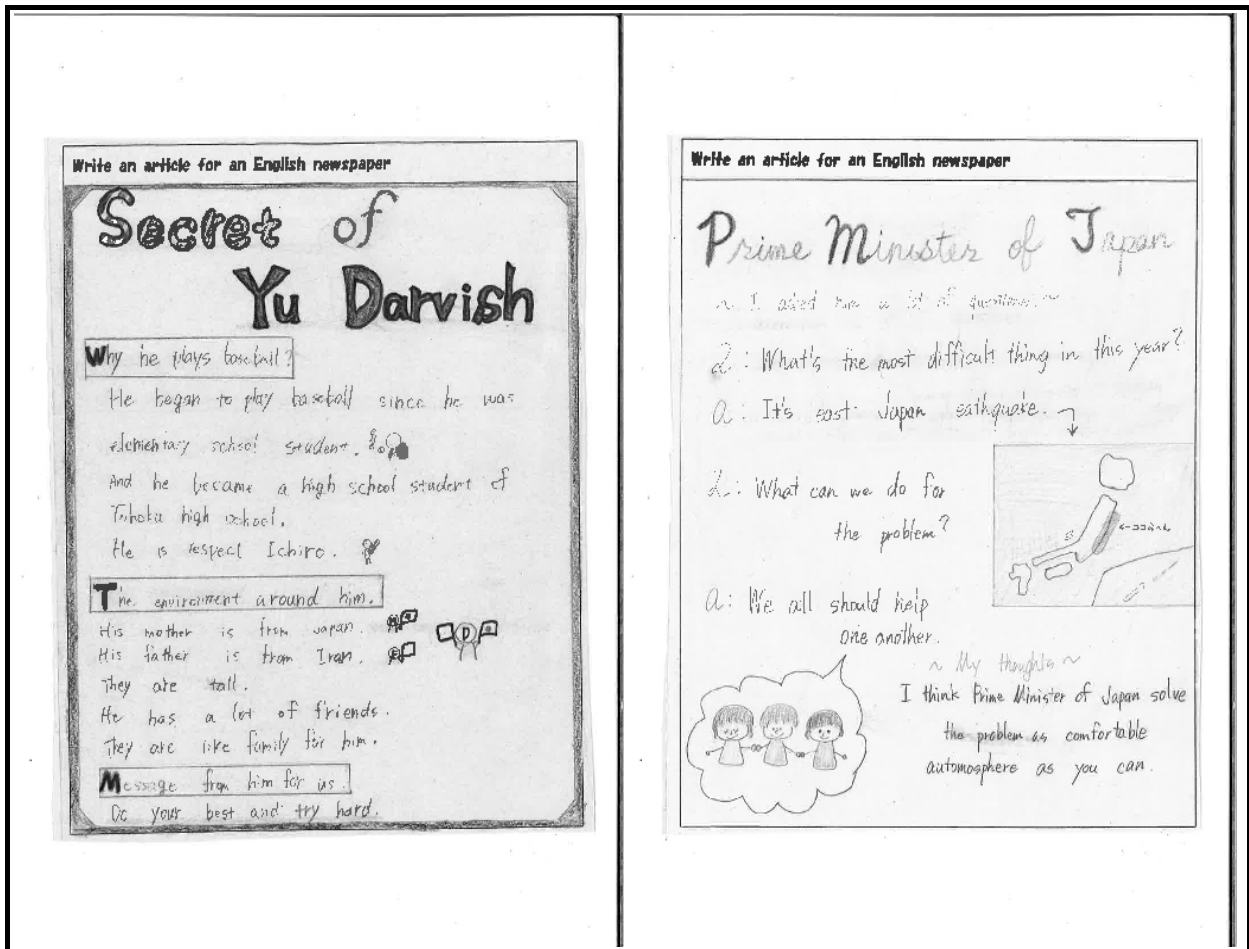
Student A: You’re going to join a new team, Manchester United, right?
Shinji Kagawa: Yes, you’re right.
Student A: What do you want to do in the U.K.?
Shinji Kagawa: I want to try hard like I always did in Japan.

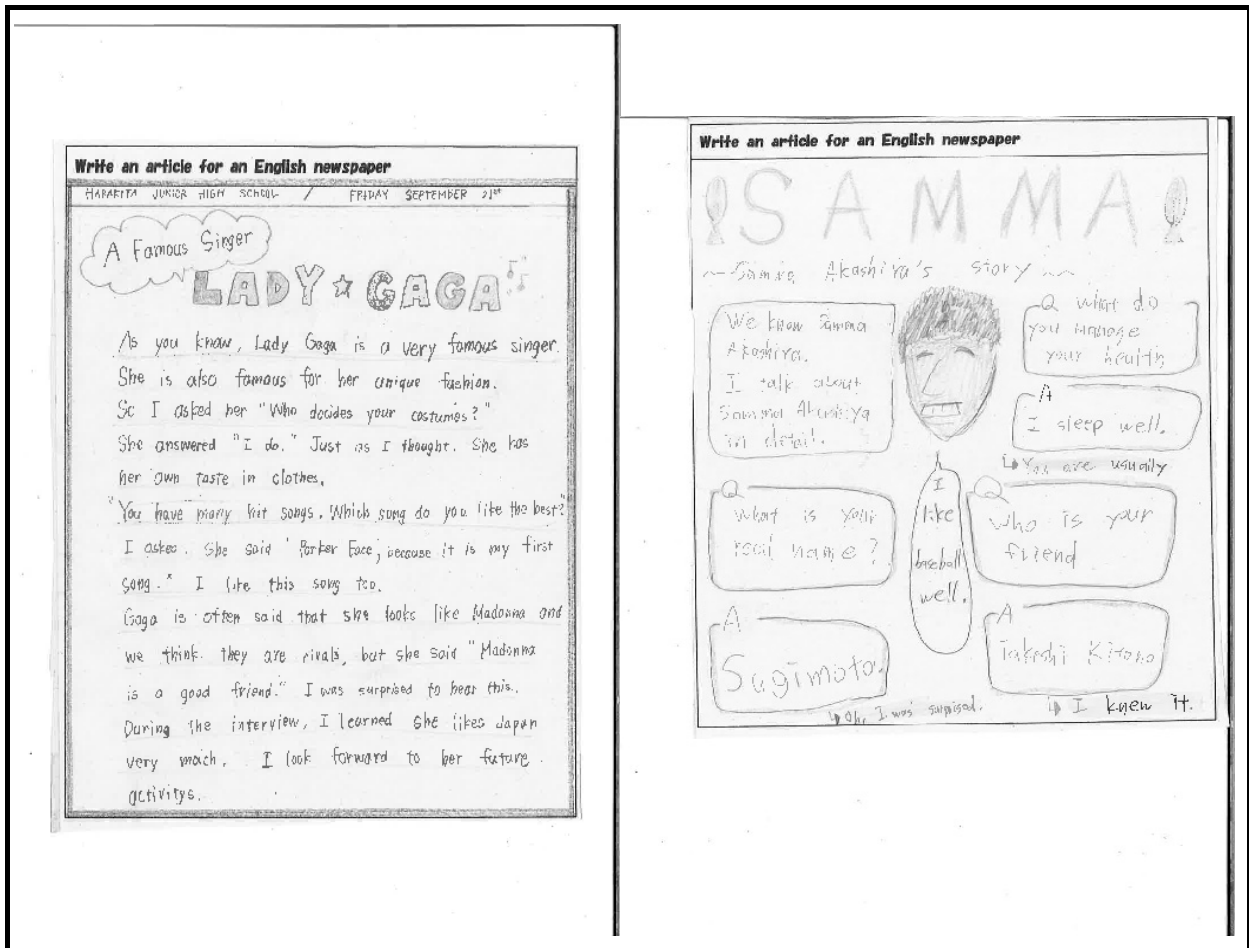
Student B: I think you have your own taste in your clothes. I like your costumes very much. Who decides your costumes?
Lady Gaga: I do.
Student C: You have many hit songs. I like all of your songs. Which song do you like the best?
Lady Gaga: ‘Poker Face’ because it is my first song.

有名人が答えたくないようにインタビューを工夫しながら、3 分間という限られた時間に手を挙げ続ける生徒たちの姿に、NS も JTE も感動した。また他の生徒たちは、ワークシートに聞き取れたことをできるだけたくさん書こうと、真剣にインタビューを聞いていた。

② 新聞記事作成時

「新聞記者なら、自分の書いた記事を読んでもらいたいはず。まず、人目を引き付ける見出しから工夫してみよう。」と呼びかけたところ、個性あふれる記事がたくさん完成した。例えば、明石家さんまの記事の見出しは、“His teeth is famous in Japan! His name is Samma Akashiya!”、Lady Gagaは、“The best singer in the world”、ダルビッシュは、“Secret of Yu Darvish”などである。3分間のインタビューで、こんなに書く内容があるのかと教師が驚くほどであった。英語が苦手でも挿絵やレイアウトを頑張ってよい作品に仕上げようとする生徒もいた。（以下は作品例）





3. おわりに

My Project でパフォーマンスする生徒は、実に生き生きとしていた。その活動は、主体的で真剣そのものであったように思われる。プロジェクト型活動は、教師の準備が大変かもしれないが、やってみれば生徒が大きな達成感を得ることは間違いない。

今後も、My Project で生徒がワクワクするような場面設定を工夫していきたいと考えている。

My Project を使いこなす技

編者 開隆堂出版編集部

発行者 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1

代表者 大熊隆晴

電話 (03)5684-6115 (編集), (03)5684-6121 (営業)